

# 平成29年度 学力向上アクションプラン

A票

園田北小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○全国調査から見られる課題(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語Aは全国比-0.5%、国語Bは-8.3%</li> <li>・算数Aは全国比-1.9%、算数Bは-1.0%</li> </ul> <p>国語、算数共に学力の向上が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語が好きは全国比-0.2%</li> <li>・国語がわかるは全国比-1.6%</li> <li>・算数が好きは全国比-3.3%</li> <li>・算数がわかるは全国比-3.4%</li> </ul> <p>○尼崎市学習到達度調査から(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語は市内平均より+3ポイント</li> <li>・算数は市内平均より+0ポイント</li> </ul> <p>5年生は国語で市内平均を上回っているが、正答率では50%程度である。せめて、どんなテストでも70%以上の正答率に上げることが課題である。</p> <p>&lt;結果の考察&gt;</p> <p>昨年度に比べ、学力は改善傾向である。しかしながら、6年生ではどの項目もまだ平均を下回っており、さらに国語のB問題においては大きな落ち込みがある。学習タイムや放課後等の時間を活用した補充学習、高学年算数の少人数学習、アクティブ加配教員との同室複数指導などにより、国語や算数の基礎学力の向上に並行して活用力を高め</p>	<p>○年4回、低・中・高・専科による全体研究授業を実施し、大学教授を招聘して、協働的な学びの創造を推進する。【(1)アクティブ・ラーニング講師招聘を活用】</p> <p>○発達障害等クラス内にいる特別支援が必要な児童に対する理解と指導方法の研修会をする。【(1)アクティブ・ラーニング講師招聘を活用】</p> <p>○先進校における取組を視察して、授業改善を図る。【(2)旅費を活用】</p> <p>○若手の教員に公開授業を義務づけると共に授業改善アドバイザーを招聘して授業力向上を目指す。【授業改善アドバイザー事業】</p>	<p>○支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童支援の教員が中心となり、低・中学年を中心に算数等の教科において複数指導や指導補助を行っている。高学年では、外国語活動の複数指導や指導補助を行う。【児童支援担当】</li> <li>・新学習システム教員により、高学年児童に対して、算数の少人数指導で、きめ細かい指導を行い、宿題等もできるまで徹底的にさせる。【新学習システム】</li> <li>・朝の帯タイムを充実させ、読書や計算、言語などの基礎学力を強化する取り組みを計画的に行う。</li> <li>・家庭学習習慣確立のために学習支援の実施(補充、発展的な学習)【(4)放課後等学習支援を活用】</li> </ul>	<p>○学習タイムの充実</p> <p>○ICT機器(大型テレビ・教材提示機等)を使った授業の充実</p> <p>○夏季休業中に「学習タイム」「復習タイム」を実施する。</p> <p>○基礎学力と活用力をつけるための「夏休みの学習教材」の作成。</p> <p>【(5)学力定着支援を活用】</p>	<p>○全国学力学習状況調査</p> <p>(1)学力調査で算数・国語ともに全国比をプラスにする。</p> <p>(2)質問紙調査で算数の「わかる」と「すき」を全国比プラスにする。</p> <p>○尼崎市学習到達度調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数共に市内平均を上回るようにする。</li> </ul>

校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>○小学校から中学校へ円滑な接続を図るために兵庫型教科担任制を社会と理科で完全実施する。</p> <p>○夏季研修会を2中5小で実施し、先進校の講演と教科単位の連携を図る。</p> <p>○中学校のウエルカム授業を2中5小で実施する。</p> <p>○入学前テストを実施し、進学後の指導に活かす。</p> <p>○学校公開時や研究授業を参観しあう。</p> <p>○生徒指導上のきまりなどの共通理解を図る。</p>	<p>(1)アクティブ・ラーニング推進支援</p> <p>(2)先進校視察支援</p> <p>(3)授業補助支援</p> <p>(4)放課後等学習支援</p> <p>(5)学力定着支援</p> <p>(6)地域人材活用支援</p> <p>(7)その他</p>	<p>○協働的な学びの創造(園田女子大学 堀田博史教授 4回)</p> <p>○思考力・判断力・表現力・主体性の育成(アクティブラーニング推進教員活用)</p> <p>○横浜市で行われる全国国語研究大会に派遣し、校内研究に活用する。</p> <p>○ICT機器・タブレット使用やアクティブ・ラーニング先進校視察</p> <p>○新学習システム教員による高学年算数の少人数指導。</p> <p>○アクティブ・ラーニング支援教員とともに、児童の主体的活動による授業形態を創造する。</p> <p>○放課後学習 2h×2学年×25回</p> <p>○夏季休業中の復習タイム 2h×2人×8回</p> <p>○学習支援に係る用紙・インク代</p> <p>○夏休みの学習教材づくりを行う。</p> <p>○地域ボランティア(読み聞かせ)年間20人分</p> <p>○発達障害傾向の児童の指導のために大学准教授を招聘 年1回</p>	<p>○「家読」の実施、図書ボランティアによる読書力の向上。</p> <p>○基礎学力づくりのてびきの活用による学習習慣の定着。</p> <p>○学力向上推進委員会だよりを活用して家庭での学習習慣を身につけさせる。</p> <p>○学力調査結果の分析と公表を行う。</p>